2020/06/09 21:27

多田雅史

件名: 全国ベンゾジアゼピン薬害連絡協議会（BYA)【情報 Vol.２０５】

各位（本情報提供メールは当会会員、協力弁護士、協力医、報道機関、医療過誤団体、野党政党等の約 400 カ所へ BCC 送信しています）

全国ベンゾジアゼピン薬害連絡協議会（BYA）の多田雅史です。
本メールはベンゾジアゼピン（BZD）関連情報をお送りしています。
⑴ 新規の情報提供希望者が身近におられた場合、BYA－HP の「お問合せ」をご紹介ください。
https://www.benzodiazepine-yakugai-association.com/
⑵ 有用な情報をお持ちの方は本メールに返送してお知らせください。皆さんに情報提供します。
⑶ 情報の中で「拡散すべき情報」があれば、皆さんの判断で自由に「転送･SNS 拡散」してください。

【目次】
１．集団訴訟の原告団の誓約書（**仮**）
２．東京都立広尾病院事件（**3 件添付**）
３．副作用で妻亡くした夫「二度と…」　医療過誤の東京女子医大に賠償命令（**添付**）
４．（公財）日本医療機能評価機構　薬局ヒヤリ・ハット事例収集・分析事業（**添付**）

【記事】
１．集団訴訟の原告団の誓約書（**仮**）
：今後、弁護団結成後、最終誓約書を作成予定。

２．東京都立広尾病院事件（**3 件添付**）
⑴看護師の「取り違え」により患者が死亡
https://gentosha-go.com/articles/-/26267
⑵「間違えたかも。」医療ミスを黙認
https://gentosha-go.com/articles/-/27011
⑶「息苦しい。両手がしびれる」医療ミスで患者死亡
https://gentosha-go.com/articles/-/27014
以下引用
『医療ミスにより患者が死亡した東京都立広尾病院事件
本事件については、刑事が、地裁・高裁・最高裁、民事が、地裁・高裁と合わせて 5 つの判決がある。本事件の事実経過について、客観的な経過の記載ということで、刑事裁判の東京地裁判決文に東京高裁判決文を加味し要約したい。』
複雑な経緯の医療事故であり、刑事・民事の両方で訴訟された事件。「事故隠し」に走る医療者の本質はどこにあるのか？

３．副作用で妻亡くした夫「二度と…」　医療過誤の東京女子医大に賠償命令（**添付**）
https://www.tokyo-np.co.jp/article/33442/
https://www3.nhk.or.jp/news/html/20200604/k10012457901000.html
以下引用
『6 年前、東京女子医科大学病院で脳腫瘍の治療を受けていた 43 歳の女性が死亡したのは、多量の薬を投与されたのが原因だと遺族が訴えた裁判で、東京地方裁判所は「薬の量を守らなかった過失がある」として、病院側に 1500 万円余りの賠償を命じました。

2020/06/09 21:27
平成 26 年に東京・新宿区の東京女子医科大学病院で脳腫瘍の治療を受けていた長浜裕美さん（当時 43 歳）が、めまいやふらつきの症状が出て、抗てんかん薬を投与され、その後、副作用とみられる重い皮膚障害を発症して死亡しました。』
東京地方裁判所の判断は、薬の**医薬品添付文書に警告される**「重い皮膚障害などの副作用を防ぐために徐々に量を増やすと定められている」ことに対し、医師らにはこれを守らなかった過失がある、と指摘した。また、「重い副作用が出る可能性を事前に説明していない**説明義務違反**があった」として賠償を命じた。いずれにしても、**裁判所の判断基準は「医薬品添付文書の警告を遵守したか？」である。**

４．（公財）日本医療機能評価機構　薬局ヒヤリ・ハット事例収集・分析事業（**添付**）
https://gemmed.ghc-j.com/?p=34261
http://www.yakkyoku-hiyari.jcqhc.or.jp/pdf/sharing_case_2020_05.pdf
以下引用
『1 つ目は、薬剤交付前に添付文書の確認を行ったことから、「薬剤併用上の留意点」に気づかなかった事例です。
　2 つ目は、薬剤師が患者に聞き取りを行う中で「重大な副作用」が発現している可能性に気づき、処方医に疑義照会し、服用中止となった好事例です。
　3 つ目は、鑑査時の添付文書確認によって「重大な副作用」の発現を防止できた好事例です。』

医療法の「医療事故情報等収取事業」と「薬局ヒヤリ・ハット事例収集・分析事業」を有効に機能させるには、医療者が適切に事故及びヒヤリハット事例を報告してこその制度である。**しかし、それらをの報告の履行は「医療機関の判断」になっているため、実際には、大量の事故事例等が報告されていない実態がある。ベンゾジアゼピン副作用も、医療者が、患者の原疾患に摩り替えずに、適切に報告していれば、添付文書の改訂が諸外国から 40 年も遅れることはなく、我が国のベンゾジアゼピン薬害も発生しなかった。**

全国ベンゾジアゼピン薬害連絡協議会　多田雅史